

1-8 下水道施設における未利用資源のエネルギー活用推進事業

事業目的

未利用となっている下水道資源を有効活用し、下水道施設を地域に根ざした再生可能エネルギー一の供給拠点とすることで、地球温暖化防止に貢献するとともに、再生可能エネルギー設備を配する下水道施設を活用したエネルギーや環境に関する人材育成、教育の場を提供する。

事業効果

二酸化炭素の削減効果	- t-co2
その他(普及啓発人数)	-

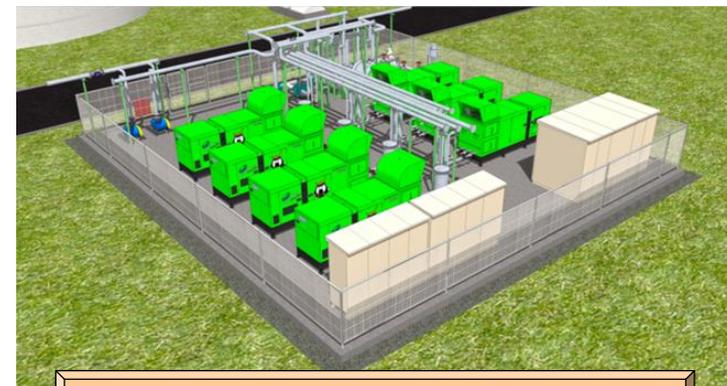
事業内容

【平成29年度事業費】 3,000千円

【事業実施場所】 宮城県流域下水道 仙塩浄化センター

【事業概要】

- ◇仙塩浄化センター汚泥消化工程の最適化
- ◇消化工程管理手順書の作成
- ◇消化ガス発電等再生可能エネルギー関連の普及啓発事業の手法検討



消化ガス発電施設イメージ

現状

- ◇下水道終末処理場の多くの資源(汚泥, 処理水等)がエネルギーとして未利用のままとなっている。
- ◇仙塩浄化センターでは、消化ガスを利用した発電事業が開始されるが、現状の消化工程の運転方法をより効率化し、消化ガスを多くする必要がある。
- ◇災害時にも大規模発電所に依存しない自立型エネルギーの導入が必要とされている。

税導入後のイメージ

- ◇仙塩浄化センターの消化工程が最適化され、さらなる汚泥減量・消化ガス増量により、消化ガスによる発電量を増し、温室効果ガスの排出抑制を図ることができる。
- ◇地産地消の再生可能エネルギーである下水道資源を有効活用することで、早期に自立型エネルギーが導入される。
- ◇未利用地の賃貸収入、電力の自家消費や売電収入により下水道経営の健全化を図る。